

# 学研 おんがく通信

Web版も  
あり♪  
バックナンバーが  
閲覧できる!  
♪ウェブならではの  
情報が満載!

12月号

2012  
年  
11  
月  
25  
日

Gakken

(株)学研パブリッシング 音楽出版事業室  
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8  
Tel. 03-6431-1220

学研 おんがく.net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

学研 電子ストア <http://ebook.gakken.jp/gstore/>

こんにちは。朝晩は凍てつくような寒さですね。でも、日中の陽だまりの暖かさがひととき嬉しく感じられます。年末にむけて、何かと慌ただしく過ぎ行くこの時期。師走の恒例行事である大掃除は早めに終えて、穏やかな気持ちで新しい年を迎えたいものです。寒さと慌ただしさに心が負けそうになりますが、陽だまりにエネルギーをもらいながら、毎日を大切に過ごしたいです。大晦日はのんびり“ベートーヴェンの第九”でも聴きたいなあ。(の)

## おすすめ!! クラシックのクリスマス曲

タイトルからはずれませんが…

今、手元に一冊の素敵な本があります。“クリスマス”をテーマに原稿を書こうと資料を探している中で偶然に出会った本です。白水社発行の『クリスマスの文化史』。著者は若林ひとみさん。今から約30年前にドイツに留学されていた若林さん。本場ドイツのクリスマスを体験して以来、ほぼ毎年渡欧し、各国のクリスマスゆかりの地を取材したほか、アンティークのクリスマスグッズの収集も行うなど、クリスマス研究者としても活躍されています。歴史や料理、ツリーやカードの起源、そして音楽と、クリスマスに関連するさまざまなお話がとても分かりやすく書かれています。グッズの写真もとても美しいです！機会がありましたら、ぜひご覧になってみてください。



さて今回は、クリスマスに聴きたいクラシックの作品をご紹介しますことにいたします。

フランス6人組のひとりで、「パシフィック231」やオラトリオ「火刑台上のジャンヌ・ダルク」で知られるアルテュール・オネゲル Arthur Honegger (1892-1955) の「クリスマス・カンタータ」です。この曲は、狭心症を患い死を目前にしながら書かれた、オネゲル最後の作品です。「われ深き淵より主を呼ぶ De profundis clamavi」「恐れなくて Ne craignez point」「世界よ、主を讃えよ Laudate Dominum omnes gentes」の3部構成で、オーケストラ、オルガン、バリトン独唱、混声合唱、児童合唱という編成で演奏されます。第1部はオルガンの不協和音から始まり、重苦しい合唱が続きます。後半も終わりまじか、突然、児童合唱が、キリストの降誕を告げ（ふっと光が差し込むよう）、第2部に入ります。第2部では、「エサイの根より」「神の子は生まれ給えり」「きよこの夜」「いざ歌え、いざ祝え」などの有名な曲が、さまざまな言語で幾重にも重なり歌われ紡がれます。その音楽の美しさは言葉にできないほどで、まるで夢の中にいるような気持ちにさせられます。第3部では、バッハのカンタータ「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」でご存じのグレゴリオ聖歌「主を讃えよ」が華やかに歌われ、幸福感に満たされます。25分に満たないカンタータにもかかわらず、闇一色の世界に一条の光が差し込み、それが希望の光へと変わる様が巧みに表現され、とても感動的な傑作です。

ぜひこのクリスマス、この1曲をゆっくり聴いてみてください。

ユロフスキ指揮ロンドン・フィル、ベシェク指揮チェコ・フィル、コルボ指揮  
グルベンキアン財団管弦楽団などのCDが現在入手可能です(2012年11月現在)。  
ナクソス・ミュージック・ライブラリーでは、ユロフスキの演奏を聴くことが  
できます (<http://ml.naxos.jp>)。 (く)



## シールの魔法

楽器店には、楽譜と一緒に  
“レッスンシール”がたくさん  
並んでいます。選んでいる  
と、ワクワクしてきますよね。みなさんは、  
ピアノ・レッスンに、どのように取り入れていらっしゃいますか？  
子どもたちが大好きなシール。取り入れ方はさまざまと思いますが、頑張った  
ときにプレゼントしてあげたいですね。「あともう少し頑張っていきたい…」というとき、  
“シール獲得”の目標をたててあげると、魔法をかけたかのように、子どもたちの表  
情が「キラッ」と変わり、ヤル気アップ!・・・なんて話も、耳にしたことがあります。  
昨年、レッスンで獲得したシールを集めることができる『ごほうびシールノート』を  
発売しました。おかげさまで予想以上の反響をいただき、このたび第2弾を発売!1ペー  
ジで25枚貼れるこのノート。はじめは1枚、1枚・・・と貼っていき、ある時振り返  
ると道ができています!「こんなに頑張ったんだ!」という充実感を得  
ることができるしくみになっています。また、キラキラ光る  
ホログラム素材の『キラキラごほうびシール』も同時発売!  
是非一度店頭でご覧になってみてください!



## びあのだりーむ 情報

「びあのだりーむ」シリーズの創刊について、今回は  
最も新しく(といっても10年以上前)シリーズに  
加わった「幼児版」のテキストとワークブックにつ  
いてご紹介します♪「びあのだりーむ」発刊当時、  
“ピアノは3歳から”という風潮がありましたので、  
第1巻は“3歳でも使える”よう工夫されています。  
ところが、時代を経るごとに“はじめてピアノに向  
かう年齢”はどんどん下がっていきます。そこで、  
「どりーむ」シリーズの“2歳半から使える”テキスト  
とワークブックとして、2001年に登場したのがこの  
シリーズです。(か)





12月

日本の年末の風物詩  
"ベートーヴェン第九"  
(1770~1827)



師走ですね。行く年来る年を大切に日本人にとっては、大晦日にむけて忙しいながらも、一年を締めくくる特別な気分で過ごすひと月です。

年末の音楽の風物詩といえば、「ベートーヴェンの第九」。毎年、職業オーケストラは必ずといっていいほど12月のプログラムに、この合唱付きの交響曲を取り上げます。そして、たくさんの聴衆が足を運びます。西欧ではこんな風習(?)はありません。おかげで日本の指揮者は「第九」を振る回数が、欧米の指揮者にくらべて、けた違いに多くなるそうです。

つまり、日本の年末の「第九」は世界的には特異なことなのですが、私たちにとってはそれほど不自然に感じられるわけではない。よほど、このベートーヴェン最後の交響曲は、日本人の「年の瀬意識」に合致するのでしょう。

そこで、ちょっと思い出ししてほしいのです。さきの東日本大震災のときに、外国人が一方ならぬ驚きで目を瞠って称揚したことなのですが、震災直後の被災地で未曾有の災害によってもたらされたさまざまな困難や不如意に、私たち日本人が、秩序正しく協力しあって行動する様子が報じられました。そのような私たちが普段は意識しない心性や規範意識は、年末に特別な気持ちで第九を鑑賞するのと淵源が重なるのじゃないかと思うのです。日本人は昔から歳時や節目を大切なものと感じ、共同体のうちではいつも折り目正しく節度をもって行動する民俗、気の遠くなるほどながい時間をかけて培ってきたのです。年の瀬の第九は、そんな私たちが、なかば無意識に自分たちのものとして受容したベートーヴェンの精神だともいえないでしょうか？ 考えてみれば、なんとも奇跡的な東西の出会いのように思われてなりません。最後に、第4楽章で歌われるシラーの頌歌『歓喜に寄す』の1節を引用します。《よろこびにあふれて、ちょうど満天の星々が／壮大な夜の夜空を悠然とめぐるように／同胞よ、おまえたちも与えられた道を歩むのだ(訳：喜多尾道冬)》(え)



♪マリア・カラス  
(アメリカ/ソプラノ歌手/1923.12.2生)

♪セザール・フランク  
(フランス/作曲家、オルガニスト/1822.12.10生)

♪コダーイ・ゾルターン  
(ハンガリー/作曲家、音楽教育家/1882.12.16生)

♪山本直純  
(日本/作曲家、指揮者/1932.12.16生)

今月の

# あかね先生



読譜力をつけるためのレッスンは、繰り返すことが大切です。けれど、新しいことが大好きな子どもたち…、興味を持続させることは、至難のわざです。あかね先生はどのようにしているのでしょうか？

『子どもたちが大好きなゲームやシールを取り入れて、楽しませることが一番よ』(あかね先生談)

シール獲得をめざして、ゲームにチャレンジ！子どもたちは遊んでいるつもりでも、いつの間にか読譜力がついていく…それは、あかね先生の考察があつてこそですね。(いも)

10月20日、東京お台場の東京カルチャーカルチャーにて、大人の科学10周年記念イベントが開催されました。当日はテルミン・マトリョミン演奏家 相田康一郎さんがゲストで参加され、テルミンの生演奏を披露いただきました。

テルミンは1920年にロシアの物理学者レフ・セルゲイビッチ・テルミン博士により発明された世界最古の電子楽器で、発明者の名前が楽器の名前となっています。アンテナの周囲に形成された微弱な電磁場を、楽器に触れずに両手でコントロールしながら演奏をする、という不思議な電子楽器です。イベント後半にはウター演奏家の宇田さんが登場！投影式万華鏡の依田夫妻の作品とのコラボで会場は幻想的な癒しの空間に包まれました。(さ)



←マトリョーシカとテルミンが合体したマトリョミンを持つ相田さん

## 大人の科学×音楽最前線

大人の科学マガジン  
◆売上ランキング◆

- 1位 ビンホール式 プラネタリウム
- 2位 テルミン mini
- 3位 35ミリ二眼レフカメラ
- 4位 ミニエレキ
- 5位 投影式万華鏡

## レッスンQ&A???

回答してくださったのは  
轟 千尋先生

Q. 生徒が作曲を勉強したいと言っています。何から始めればよいでしょうか。

A. 具体的に何から始めるかというのは、その時期によって変わってきます。

◆小学生の場合：思い浮かんだものを自由に書いていい時期だと思えます。想像力を自由に羽ばたかせて、聴こえてきた音を、大切に書き留めてください。小学校を卒業するまでに、ある程度コードネームをマスターしていると、後に和声進行と結びつけて作曲をしていくときに楽かもしれません。

◆中学生の場合：モチーフの展開で曲を作り上げていく方法を学んだり、2部形式やソナタ形式など、簡単な楽式論を学ぶことで、充実した作品を作ることが出来ると思えます。今自分が弾いている曲の構成を、まねて書いてみるのもいいですね。

◆高校生の場合：和声の理論を紐解くことをオススメします。トニックの安心感、ドミナントのエネルギー、サブドミナントの効果など、基本的な和声のからくりを身体に染み込ませると、作曲するとき、響きの連結のしなやかさ、例外進行を狙った意外性、ドラマのつくりや構成のアイデアが、確実に変わってきます。

また、●自分の思い浮かんだ音楽を、きちんと人に伝えられるような楽譜が書けること

●いろいろなアイデアを導くために、いろいろな音楽を聴くこと

●研ぎ澄まされた耳を作るための、ソルフェージュ力を身につけること

この3つは、作曲の道を志す上で不可欠なので、早い時期から出来れば出来る程、いいかもしれませんね。

## つむりの練習手帳

この前の日曜日、ボクはテストの点が悪くて、パパにめちゃくちゃ怒られていたんだけど、おんなじ頃、ピアノのところで、つむりがバイエルをうまくひけなくてナミタ目になっていました。ママに「この曲はどんなお歌が流れる曲なの？」って聞かれて、わかんなかったからみたい。たしかに、メロディーのヘンなところをつつかかるから、ボクまでいろいろわかんなくなります。それにしてもつむりのナミダスイッチはすぐ入ります。(トホホお兄)

つむり現在の楽譜

- ☆こどものハノン ⑤
- ☆バステインピアノバイシックス1
- ☆こどものバイエル ⑤(原書番号77番)



糸桶集部のつむいってー!

赤や緑の飾りつけに、鈴の音がシャンシャン シャンシャン…♪大人になっても、この空気感に、うきうきワクワク

ああ、このワクワク感…ピアノが弾きたくなくなってきたー!! (@いも)



Facebookはじめました ♪ <http://www.facebook.com/gakken.music>